

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
だい き だい ねん だい かい だい にち
(第9期 第1年 第1回 第1日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2012(平成24)年4月22日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 24人

うーちゆん おう ゆうしん きよ かきん やん いー わん びん こん みるすく あん よんいる ぼく ちやんほ さる うゝい お
ローズマリー、中村 ジュデイス、シャルマ ガジエンダー、ケオパサアト
ラツアミちゃん、ガン リヨンイン、仲田 シリワン、グエン ゴク バオ リン、法邑
カレン ウイルフリダ、ウンチャンギリ クリストファ、柳澤 アンナ、コロんツイ
カロール、園田 泉 ベアトリス、生出 オリエッタ、シャヒン セルカン、シフケン
ブランドン、チャート デビト

(2) 砂田慎治副市長、

(3) 事務局

やまざき きよくちやう よこやま しつちやう さとう たんとうかちやう にしやま たんとうかちやう いしかわ たんとうかちやう まつい たんとうかちやう
山崎 局長、横山 室長、佐藤 担当課長、西山 担当課長、石川 担当課長、松井 担当課長、
やぎ かつらう ほ さ む かい たんとうかちやう ゆかわ しゆにん にしぐち せんもんちやうさいん
八木 課長補佐、向井 担当係長、湯川 主任、西口 専門調査員

4 傍聴者 9人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 委嘱状の交付

(4) 副市長あいさつ

(5) 事務局の紹介

(6) 代表者の自己紹介

(7) 議事

① 正副委員長の選出

② 年間日程の確認

③ 市内視察について

(8) 事務連絡

(9) 閉会

6 議事等の経過

【開会】

(開会し、事務局から配布資料の説明)

事務局佐藤課長「エドモンド委員から欠席の連絡をいただいている。」

(委嘱状交付)

【砂田副市長の挨拶】

砂田副市長「川崎市では1996年、条例に基づき外国人市民代表者会議を設置し、皆さんの様々な立場からの意見を市政に反映させることを目的に活動してきた。川崎市は日本の経済の中心地ということもあり海外からも多くの方が川崎に住んで、川崎の発展を支えていただけてきた。現在、人口の2%、約50人に1人は外国籍の方ということになる。

市には様々な課題がある。特に昨年は3月11日に大きな震災があった。外国人市民の皆さんにとっても、いろいろな影響があったと思う。そういうこともあり、第9期の外国人市民代表者会議の代表者への応募も過去最多の280名を超える方から応募をいただいた。10人に1人という大変厳しい中で代表者になっていただいた。川崎市では多様な意見、多様な経験を共有し、尊重して暮らしていくような、まちづくりに向けて取り組んできた。少しずつ成果も出ているのではないかと思う。4月20日には、第8期の委員長、副委員長、各部会長の皆さんから4つの提言をいただいた。それぞれの提言に市は一生懸命取り組んでいきたい。

国籍や文化の枠を超えて、皆が幸せに暮らせるまちづくりが何より大切。代表者になられた皆さん、ぜひ自由に活発に議論をしていただき、提言、提案を寄せていただき、川崎のまちづくりがもっとすばらしいものになるよう、ご協力、ご活躍いただきたい。」

(事務局横山室長から事務局の紹介)

【代表者の自己紹介】

呉委員「中国、北京から来た。川崎市に住んで3年。川崎市については、まだまだ知らないことも多い。これから勉強していきたい。今回、代表者として選ばれ、こんなに多くの外国人の方と集まって話し合うのは、人生初めての経験。去年の震災もあり、これから外国人の人々にどうやって防災の知識を普及させるか、どうやって防災訓練をするかについて、話したい。」

王委員「中国の香港出身。来日7年目。現在、青山学院大学国際政治経済研究科の修士1年生。現在、異文化コミュニケーション及び日本における留学生の受け入れについて研究している。学生の視点も加えながら、皆さんとまちづくりや異文化交流、留学生とか外国人の受け入れについて話合いたい。」

許委員「台湾出身。第8期から引き続き、この2年間も皆さんと一緒に頑張っていきたい。家族3人で、息子は小学校2年生。特に乳幼児を持つ外国人保護者の子育て支援について、話したい。」

楊委員「中国の北京出身。川崎市に住んで約2年半。川崎のことをもっと知りたい。この会議を通じて、皆さんと知り合い、様々な事を検討していきたい。私の仕事は高齢者の福祉関係の仕事。特に外国人の福祉のことや医療のことを話し合い、もっと生活しやすい環境をつくれるように頑張りたい。」

王委員「中国出身。日本に来て19年になる。川崎は15年前から住んでいる。第8期に引き続き、第9期も代表者を務める。5人家族で、子どもが3人。第9期でも教育について、話していきたい。」

孔委員「韓国から来て13年目、川崎に住んで12年になる。皆さんと一緒に色々なこ

とを話し合い、少しでもこの国際社会の役に立ちたい。日本人も外国人もより住みやすい地域をつくるために頑張りたい。」

朴委員「8期から引き続き代表者となった。障害者福祉の仕事をしている。今、川崎では地域の人が国籍に関係なく、分け隔たりなくつき合っていく地域福祉という考え方がある。地震で真っ先に動いたのが地域の人々ということもあり、地域福祉について話し合いたい。私も子どもがいるが、「なぜあのとき、ババ、ママが声を出してくれなかったのか」と言われぬように、頑張りたい。この会議に参加してよかった、勉強になった、と思える会議にしていきたい。」

安委員「私は在日朝鮮人。生まれも育ちも川崎で、今年の誕生日で56になる。国籍は朝鮮籍だが、日本に同化して、半分日本人とも言えると思う。韓流ブーム等で韓国人、朝鮮人に対する差別等が大分減ってきたが、過去の歴史的経過から始まり、在日朝鮮人・韓国人として、これからの子どもたちが堂々と外国人として1人の国際人として自信を持って生きていけるような世界が来てほしいと思い、この会議に参加した。」

サルヴィオ委員「フィリピン出身で、日本に来て15年ぐらいたが、ずっと川崎に住んでいる。しかし、川崎に何があるか私には全然情報がなく、それがすごく寂しい。もっと川崎のことを学んでいきたい。私は国際結婚なのだが、正しい情報やこれからのことと、未来のことなど、もっと住みやすい川崎にするために、役に立ちたい。」

中村委員「フィリピン出身。日本に住んで13年。まだ日本語はちょっと難しいと思うことがたくさんある。川崎にはずっと住んでいて、子どもが2人の4人家族。去年代表者になり、今回2期目になるが、参加してとてもよかったと思う。もっとたくさんすることを学んでいきたい。」

シャルマ委員「インド出身。日本に来て9年、川崎市に住んで2年半になる。日本に1998年来たが、そのときに色々な国籍の方と出会い、異文化理解、異文化交流がとても重要だと思った。その後、フランスに住み、フランスでパリ国際交流協会を立ち上げ、180人、30か国の人たちと2年ぐらいた活動した。その活動の中で、将来のためには、子どもの教育がとても重要だということを感じ、ポジティブ・ドライブという子どもの学習支援のプロジェクトをライフワークとしてやっている。また、1998年から2004年まで、茨城国際交流センターでも活動していた。今回代表者として、川崎市で私の経験や活動を生かして貢献していきたい。」

音楽が大好きで、個人的な趣味として、バンドをやっている。いつか皆さんにも紹介したい。言語にもとても興味があるので、この機会に様々な言語での交流もしていきたい。」

ケオバサト委員「ラオスから来た。日本に来て8年になる。子どもについて、特に教育について、いじめについて、小さい子どもを持つ外国人が働きたくても、働けない問題などを皆さんと交流しながら、話し合いたい。」

ガン委員「マレーシアから来た。日本に来て18年目になる。他の代表者の皆さんといろいろな意見交換をしながら、川崎市、川崎の市民、外国人市民に少しでも役に立つようなことや少しでも貢献できるようなことがあれば、ぜひ頑張りたい。」

仲田委員「川崎市に住んで10年になる。私は主婦で、子どもが2人いる。自分のことや友人のことで、困った経験がたくさんある。1番目は教育制度の情報が足りないこと。日本人は友人や近所の人に情報をもらっているが、外国人の主婦は全然わからないことがたくさんある。もう1つは、医療制度の情報。例えば外国人の奥さんは病院には日本人の夫と一緒に言えないと言葉が分からない。しかし、子どもがいると、よく子どもを病院に連れて行くことがあるが、夫はそのたびに何度も会社を休むのは難しいので、困ってしまう。外国人の保護者や子どもたちのためになるような制度、サービスを考えたい。」

グエン委員「ベトナムのホーチミン市から来た。日本に来て17年、川崎に来て4年目になる。以前住んでいた静岡県では、私は富士の国の親善大使を務めたことがある。この経験を生かして、代表者として活動したい。話したいテーマはたくさんあるが、まず皆の力を合わせて頑張りたい。日本人も外国人も私はそんなに区別しない。外国人のためだけに議論するというより、日本人と外国人を川崎市民全体として考え、皆が住みやすい町をつくっていききたい。一度の人生、楽しく働きながら生活することが一番幸せ。皆さん力を合わせて頑張りたい。」

法邑委員「ケニアから来た。日本に住んで10年目。今、自分が感じている大きな問題は、この世界に色々な肌の人がいるということ。これを日本人に伝えたい。私は黒い色と言われることは、嬉しい。多くの子どもがいじめられていると言われていて、大人もいじめられていることを皆にわかってほしい。

つい最近、出勤のため朝6時に電車に乗って日本人の隣に座ると、汚い、汚いと言われた。服のことか体のことかわからないので、何が汚いのかと自分も聞いた。でも、ただ汚い、汚いと言われ、日本人の人々が持つ意識についてとても不安を感じた。大人に対して汚いと言う人がいるなら、子どもに対しても言っているのではないか。日本の大人や学校は肌の色の違いについてどのように子どもに教えているのか。国際化の時代、身近に外国人がいて、肌の色の違う人もいる。私はできれば先生になって、子どもに私の肌を触ってほしい。そして、二度と私の体を汚いと言わないような社会にしたい。」

ウンチャンギリ委員「タンザニアから来た。日本に来て12年、川崎市に住んで2年になる。この会議を通して、市や代表者からいろいろ学んで、自分の国で自分の経験を伝えたい。家族は4人で、妻と子ども2人。上の子どもが3歳、下の子どもは1歳。私と妻は家ではスワヒリ語で話をするが、子どもには日本語を覚えてほしくて、保育園に通わせたいと思った。しかし、妻が働いていないため、保育園に入るができない。私立の保育園は高いお金がかかるので通わせられない。しかし、子どもを保育園に入れないと、小学校に入学するときに、日本語がわからず、困るのではないかと心配している。例えば、親が外国人の場合は保育園に入れられるような形にできるとよい。」

柳澤委員「ロシアから来た。家族は5人家族で、3人の子どもの母親でもある。第8期に続き、第9期では、第8期で出した4つの提言に入らなかったテーマがいくつかあったので、それを話したい。また、私の両親がサポートが必要になった場合、私はどうすればいいかという問題がある。自分の子どもの面倒をみながら、母国の両親の面倒も見なければいけない。この問題について皆と話し合えるとよ

い。」

コロナ委員「スロバキアから来た。川崎には4年住んでいて、代表者としては、前期からの2期目になる。前期に提言したテーマのフォローを代表者会議の中でしたい。議論したが、提言にならなかったテーマ、特に出入国管理の中で外国人の親がどのように位置づけられているかについて話したい。自分が持っているテーマではなく、皆さんから出たテーマについても、できるだけ意見を出して貢献したい。川崎の市民として、外国人と日本人が仲よく住みやすくするために、2年間務めたい。」

園田委員「ブラジルから来た。川崎に住んで3年目になる。私はボランティア活動をずっとやってきた。私には3人の息子がいる。義務教育は中学生まではそのまま進級するが、受験になるととても大変になるということを3回経験した。下の息子がやっと高校に入ったが、その大変さが少しでも軽くなるよう、小さなお子さんを持っている外国人の人たちに少しでも私の経験を生かして、お手伝いができればいい。今回は、教育についてとても興味がある。」

生出委員「南アメリカのチリから来た。今回で代表者は2期目になる。最初に代表者になったとき、日本に長く住んだ自分の経験を生かしたかったが、最初の1年は日本語の方が足りず会議資料もほとんど読めなかった。でも、2年目には少しずつわかるようになり、皆似た経験を持っていることを知った。私は教育に興味を持っており、家庭や学校の教育、自分の経験などを考え、いじめ問題など皆と話し合いよい意見をもらった。これからは個人的な自分たちの経験をもっと出し合い、皆で共有することが大事。ただ、経験を聞いて、そこからどのように解決できるか、調べたり学んだりしながらアイデアを出していくことも必要。今回は、皆の経験、どんな問題があるか、どんな結論が考えられるか、もっと学んでいきたい。」

シャピン委員「トルコから来た。来日して3年になる。今、理化学研究所で遺伝子についてのソフトの開発をしている。一人の外国人として、また職場で多くの外国人に囲まれていることもあり、私もこれまで日本人も含め、この社会、このまちについていろいろ考えているが、外国人の立場で意見を言うていくことは大事だと思う。皆と協力しながら、皆が本当に幸せに住める町をつくりたい。」

シフケン委員「日本に来て20年、川崎には12年間住んでいる。アメリカのアリゾナ州出身。今、41歳で、あと1年たつと、自分の人生の半分を日本で過ごすことになる。このことを周りからよく言われるようになり、少しずつ実感してきた。

この4月に子どもが中学校に入学した。我々日本人の国籍を持たない人は投票できないが、この機会を通じて社会に貢献し、その姿を子どもに見せたい。投票できなくても、社会に貢献できることを証明したい。皆さんと色々な経験や色々な文化をベースとした話し合いができるのが楽しみ。話したいことは色々あるが、自分が特に出したいテーマは今はまだないので、皆さんの意見を聞き、自分も意見をだしながら1つの具体的な提言をつくっていききたい。」

チャート委員「イギリスから来た。日本にきて8年半、川崎市には7年住んでいる。私も第8期から引き続き代表者を務める。第8期では、様々な外国人が川崎市に住んでいて、私の経験と全く違う経験を持っている人がいることを実感した。私が感じる問題ではなく、ほかの人の問題の中に一番深刻な問題があるのでは

ないかと思う。私の肌は黒くないし、私は外国人の主婦でもない。私はほかの人の問題を重視することも大事だと思う。第8期で提言にならなかったテーマがある。特に情報の問題は重要。川崎市の制度はとてもよいが、私たち代表者でも知らないことが多かった。そのためどのように情報を外国人市民に伝達するかについて、話し合いたい。また、どうやって外国人市民が日本人市民と一緒に社会参加できるかについても話し合いたい。その他の問題も学びたいと思う。」

(砂田副市長、山崎局長を囲んで記念撮影の後、休憩をはさんで再開)

【正副委員長の選出】

＜仮議長の選出＞

横山室長が仮議長を務める（挙手全員）→承認

＜会議の成立＞

横山仮議長「川崎市外国人市民代表者会議条例第8条に基づき、今日は24人が出席しているので、会議が成立した」

＜正副委員長の役割＞

(事務局湯川主任が資料2に基づき、正副委員長の選出に関する確認事項について説明。)

＜採決＞候補者の決定方法

事務局案－立候補者、推薦された人、両方が候補者になる。ただし推薦された人は、辞退できる。(挙手全員)→承認

＜採決＞委員長候補者の選出方法

事務局案－①候補者が1人のときには、挙手で承認をする。②候補者が2人以上のときには投票で選ぶ。(挙手全員)→承認

＜採決＞投票の方法

事務局案－無効票は次の場合。i何も書かれていないもの。ii複数の名前、番号が書いてあるもの。iii書かれた内容が読み取れないもの。iv名前と番号が一致しないもの。

投票して、最高得票者、一番票の多かった人が、過半数の票をとっている場合、そのままその候補者が決定。最高得票者の人の票が過半数になっていない場合は再度、もう一度上位2人の投票を改めて行う。

(全員挙手)→承認

【副委員長の選出方法】

横山仮議長「副委員長の選出方法も委員長と同様でよいか」

呉委員「委員長が副委員長候補を挙げ、その中から選ぶのはどうか。」

横山仮議長「案では、立候補と推薦を両方受けることになっているため、委員長から副委員長を推薦していただき、その方が推薦を受けるという場合には、委員長の推薦

も副委員長候補に入ることになる。」

<採決>案 副委員長の選出方法は委員長と同様の方法で行う。(全員挙手) →承認

[委員長選出]

横山仮議長「委員長として立候補される方は、手を挙げて。」

立候補 - チャート・デビト
シャルマ・ガジェンダー
王平

推薦 - 呉群 (→辞退)
シフケン・ブランドン (→承諾)
柳澤アンナ (→辞退)

横山仮議長「委員長を選出するに当たり、候補者それぞれにスピーチをしてもらい、それから投票する。」

シフケン委員「推薦していただき感謝している。委員長の一番大切な役割は、皆の意見をまとめて、市長に伝えること。皆さん関心のあるテーマを強く主張していたが、私は自分が外国人であることでとても困ったという経験はあまりない。これから皆さんの意見を一生懸命聞いて、まとめて伝えるという役割は果たせると思う。委員長になったら一生懸命役割を果たしたい。」

チャート委員「委員長の重要な役割は、代表者会議が全体として審議できるよう図ることだと思う。まだ決定していないが、現実的に見て、全体会で審議するのは難しいので、おそらく今後は部会に分かれて審議を進めることになると思う。第8期では部会で審議を進めた結果、互いの部会の審議内容を理解していなかったり、提言案の修正意見が最後の審議で突然出たことで、意見がまとまらなかった印象があった。今期は部会の審議の内容をお互いに理解し、他の部会の審議について意見を出す場をつくりたいと思っている。実際の審議は部会長が進行するので、委員長として互いの部会の内容を理解しあい、審議を深められるようにしたい。」

王平委員「今期から名前の読み方を「ワンピン」に変更した。第8期で市議会に参考人として出席した際、川崎市の市議から個性を出してはどうかと提案された。また、去年のオープン会議で来場者の方が通称名を使わず、堂々と本国の名前を使ってアピールしたらどうかという意見があり、今回、名前を「ワンピン」と改めた。第8期に副委員長を務めたが、その経験を第9期に生かしたい。委員長になったら、皆さんとこの2年間方を合わせてやっていきたい。」

シャルマ委員「私はこれまで、国際交流や子どもの教育などの様々な活動に取り組んだ経験がある。異文化交流に関しては、パリで30か国の人々と一緒に2年間取り組んだ。また、50か国の学校の人達で組織する協会の協会長として1年間務めた経験がある。委員長の役割は皆さんの色々な意見をまとめることが重要。特に皆さんの意見を細かく、丁寧に考慮した上で、同じ方向に向かうようにまとめることが重要だと思う。また、色々な意見の中から共通の課題を見つけて、その課題に対する解決案を最終的な提言にするために、過去の経験をいかして委員長を務めたい。」

<投票>

横山仮議長「投票は用紙に番号か名前かその両方を記入してほしい。」

[1回目] 5番 王平 (→9票)

1 2番 シャルマ・ガジエンダー (→6票)

2 5番 シフケン・ブランドン (→5票)

2 6番 チャート・デビト (→3票)

横山仮議長「得票が過半数に満たないので、上位2名のみで再度投票を行う」

[2回目] 5番 王平 (→15票) →委員長に決定

1 2番 シャルマ・ガジエンダー (→8票)

(無効1票)

<副委員長選出>

横山仮議長「副委員長として立候補される方は、手を挙げて。」

立候補 - シャルマ・ガジエンダー

シフケン・ブランドン

推薦 - チャート・デビト (→辞退)

法邑カレン・ウィルフリダ (→辞退)

コロンツイ・カロール (→辞退)

園田泉ベアトリス (→辞退)

安栄一 (→辞退)

<投票>

横山仮議長「投票は用紙に番号か名前かその両方を記入してほしい。」

1 2番 シャルマ・ガジエンダー (→13票) →副委員長に決定

2 5番 シフケン・ブランドン (→9票)

(無効2票)

横山仮議長「それでは委員長、副委員長が選出されたので、二人にそれぞれごあいさつをいただきたい。」

王委員長「委員長になって、とてもうれしい一方、緊張もしている。これから2年間頑張ってやらなければいけないという責任を感じながら、皆さんと力を合わせて、2年間やっていきたい。よろしく願いいたします。」

シャルマ副委員長「皆さん、ありがとうございます。委員長をサポートし、皆さんの意見を踏まえて、いい成果を出したい。よろしく願いいたします。」

【年間日程の確認】

王委員長「ここから議事を進めたい。まず年間日程について、事務局の説明をお願いします。」

(事務局向井係長が資料3に基づき、年間日程について説明。)

王委員長「年間日程について質問はあるか。」

朴委員「臨時会の日程は含まれていないが、なぜか。」

王委員長「臨時会は、今後開催するかもしれないも含めて決めていく。」

呉委員「この日程が変更になる場合、いつごろ連絡があるのか。」

王委員長「この案で決定すれば、基本的にはその後変更することはない」

柳澤委員「補足だが、去年は大震災後に会議日程の変更があった。」

王委員長「では、年間日程を案の通り決定してよいという人は挙手して。」
(全員挙手→決定)

【市内視察について】

王委員長「続いて、視察について事務局の説明をお願いします。」

(事務局湯川主任が資料4に基づき、視察について説明。)

仲田委員「視察の日程案は7月29日で夏休み期間中だが、子どものいる家庭や一時帰国の予定が入ると、参加が難しい。」

朴委員「第8期ではふれあい館に視察にいったが、会議で子どもを連れてきてもよい、ということになったので、子どもと一緒に視察に参加した。」

孔委員「視察の場所は今日の会議で決めるのか。」

王委員長「今日は、視察を実施するかしないかを決める。」

事務局湯川主任「実施することが決まったら、各委員の提案等を聞いたうえで、次回、日程と場所の案をいくつか提出する。」

王委員長「では、第9期の代表者会議で視察を実施することに賛成の人は挙手して。」
(賛成20人→決定。)

ケオパサト委員「視察には家族を連れて行ってもよいか。」

王委員長「第8期では家族等も連れていたが、第9期も同じく大丈夫だと思う。」

事務局湯川主任「事務連絡だが、ニューズレターに載せるプロフィールをまだ提出していない方は本日あるいは来週金曜日までに提出いただきたい。」

朴委員「来月の主な議題を予告してほしい。」

王委員長「第8期では、社会生活部会と教育部会の2つ部会に分かれて審議したが、今期部会をつくるかつくりなないかを次回審議する予定。まだ、終了まで時間があるので、視察場所の希望があれば言ってほしい。」

朴委員「川崎の最南端の浮島工場地帯がよい。施設や場所がわかるような地図があれば、参考にいただきたい。」

事務局湯川主任「3月の事前研修会で、「いいなかわさき」という川崎の観光スポットなどが紹介されている冊子を配布した。今希望がなければそれを見ていただき、見学したい場所があれば来週金曜日までに事務局に連絡してほしい。」

ケオパサト委員「川崎の工場に見学に行ってはどうか。」

グエン委員「視察は、代表者がもっと川崎のことを知り、頑張って役割を務めるために、実施するので、ただの遊びなら、各自で行ってほしい。」

王委員長「視察は委員の親睦を深める機会でもある。皆さんがここで3時間程度審議をするが、ほとんど個人的なつき合いはない。視察を通して、人と人とのつながりや互いの理解を深めることも大切だと思う。」

サルヴィオ委員「外国人が日本に来て、一番最初に探るのは日本語を学ぶところ。日本語教室を見学したい。」

朴委員「視察の目的には、川崎という町がどういうところか知るといふこともある。川崎の中でも自分が行ったことのない地区もあるだろう。視察によって広く、川崎を知ること、会議の参考になるのではないか。」

法邑委員「外国人が日本料理を学んだりできる場所を見学したい。」

王委員長「では、ほかに希望があれば事務局に連絡してほしい。私から事務局に提案がある。第8期に名刺を事務局に作成してもらったが、第9期でも委員に配布して、川崎外国人市民代表者会議の委員であることをアピールしてもらいたい。」

事務局湯川主任「皆さんの希望があれば事務局で用意する。」

王委員長「名刺が必要な人は事務局のほうに連絡してください。」

呉委員「名刺を実際に渡す機会はどのようなときか。」

王委員長「私は自分の周りの人に配ったり、オープン会議後の交流会で参加者と名刺交換をした。」

柳澤委員「次期代表者の募集を行う際に、日本語学級に広報に行くが、その際、会議の宣伝のために、名刺を配ることがある。」

仲田委員「個人的に市民館や保育園の人と話をする際に、名刺を自分の自己紹介で渡しても大丈夫か。」

王委員長「大丈夫だと思う。名刺のサンプルを回覧しているが、希望者は連絡してほしい。」

ウンチャンギリ委員「今後会議の中で川崎市の現状を知りたいという場合には、どのような方法があるのか。」

王委員長「初めて代表者になった方々には、この会議の歴史や進め方などの説明があると分かりやすいと思う。今後の会議を進めていく方法などを知るための、自主的な勉強会を開きたいと考えている。」

チャート委員「直接審議内容に関わる情報は、事務局に調べてもらって、次の会議で資料として提出してもらうことができる。」

柳澤委員「資料だけでなく、担当者や詳しい人を読んで説明してもらうこともできる。」

朴委員「会議の1週間前くらいに会議資料が事務局から届くので、必ず目を通してほしい。資料をつくった人に大変失礼なので、必ず事前に目を通して、わからなければ、電話で聞くなりして内容を確認してほしい。」

王委員長「では、本日の会議を閉会する。」